

Newsletter

第9号 2025年6月発行

日本糖尿病教育・看護学会 第15期 国際交流委員会

学会員の皆様

こんにちは、国際交流委員会より、ニュースレター第9号をお届けいたします。

今回は IDF 参加報告や開催予定の糖尿病関連国際学会情報をご案内します。

今後も国際的な観点から学会員の皆様へ糖尿病看護に関する有用な情報を発信してまいります。

■■■トピックス■■■

1. IDF World Diabetes Congress 2025 参加報告
2. 2023 年 International Diabetes Federation Western Pacific Region に参加して
3. 糖尿病関連国際学会情報

1. IDF World Diabetes Congress 2025 参加報告

4月7日～10日にバンコクにて IDF World Diabetes Congress 2025 が開催されました。学会では、世界中から参加された糖尿病専門職者より多岐にわたる最先端の情報が共有され、非常に充実したプログラムが提供されました。

「Access to care in different regions」のセッションでは、各地域の糖尿病ケアに対する課題と解決策について議論が行われました。欧州(特に北欧諸国)では1型糖尿病の発症率が高いこと、アジアでは糖尿病へのスティグマが強い傾向にあること、中東では性別による治療への格差が生じていること、アフリカでは Brain drain(優秀な人材が国外へ流出)が課題であり、対策が急務であることが報告されました。低中所得国では、インスリン供給困難や医療専門職者不足といった糖尿病ケアのためのインフラが整備されておらず、特に農村部で状況が深刻であることも報告されました。これらの課題に対して、政府や NGO、プライベートセクターとの支援体制強化、プライマリーヘルスケアの充実、テクノロジーの活用が解決の糸口になるのではないかと議論されました。

学会では、デジタルヘルスに関するセッションが多く、注目のトピックであることが窺えました。テクノロジーを活用した糖尿病管理やケアに関するセッションでは、AI を活用した糖尿病患者の行動変容を促すツールの開発や、オンライン診療や自宅でのラボテスト、薬剤郵送サービスを提供するモバイルアプリ Diahome の紹介がされました。別のセッションでは、非侵襲性の血糖管理ツールとして、グルコースオキシダーゼ法(生じる電荷を電極で計測し、酵素を通過した電子の個数を測定することでグルコース濃度を調べる酵素電極法)を用いたバイオセンサーの開発についても紹介されました。一方、デジタルヘルスの活用に対する課題としては、経済的負担がかかること、高齢者にはハードルが高いこと、無意識化のバイアス(教育歴や家族環境などがテクノロジーの活用への抵抗感に影響する)等が報告されました。また、血糖コントロール不良患者に対しては、専門職者による手厚いケアが求められ、デジタルヘルスの活用が効果的でない場合が多いことも報告されました。課題解決のためには、Scalability にシステムを変化させ、それぞれの需要に応じて柔軟に対応していくことが重要であると締めくくられました。

2026年8月には IDF-WPR 2026 & ADC 2026 がメルボルンで開催されます。糖尿病に携わる様々な国の専門職者と国際交流ができるチャンスです！是非参加されてみてはいかがでしょうか。(山口)



Shape the
future of
diabetes
www.idf.org/congress
#IDF2025



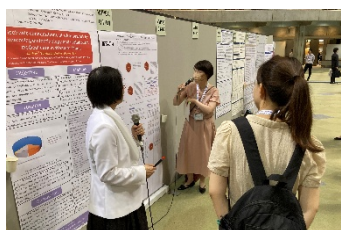
2. 2023 年 International Diabetes Federation Western Pacific Region に参加して

少し前のことになりますが、2023 年 6 月 21 日～23 日に京都で開催された International Diabetes Federation Western Pacific Region に、ポスターオーラル発表で参加した体験をお伝えしたいと思います。

以前から、臨床の看護師として「一生に一度は国際学会で発表してみたい」「世界の国々の人と交流したい」という夢がありました。2023 年に京都で開催されると聞き、これは絶好の機会だと思い、発表をすると心に決めました。休みが取りにくい現状でも、日本国内であれば参加しやすいと考えたのです。登録の手続きですら私には難しく、翻訳サイトを使いながらなんとか完了させました。発表内容は、一緒に勤務する医師の協力を得て確認してもらい、翻訳サイトで英訳したものを、さらに英語が得意な医師にチェックしてもらいました。発音は翻訳サイトの音声を真似しながら練習し、なんとか本番を迎えました。

当日は天気も良く、気分も晴れやかで、それほど緊張することなく発表できました。しかし、ここからが大変でした。英語での質疑応答です。座長の先生の質問の意味が分かりません。すると、次の発表者の先生が見かねて、英語の質問の意味を小声で教えてくれました。「OH！」と理解しましたが、今度はそれに対する英語の答えが思い浮かびません。座長の先生は質問の仕方を変えながら、ついに Yes か No で答えられる質問に切り替えてくださり、ようやく返答することができました。「恥ずかしい思いをしたのでは？」と思われるかもしれませんが、そんなことはありません。それ以上に、国際学会で発表できた喜びのほうが大きかったのです。

臨床の現場で働く看護師にとって、学会発表はそもそもハードルの高いことかもしれません。日常業務とは異なり、特別な経験になります。しかし、自分が実践していることを形にして発表することは、振り返りにもなり、一つの区切りにもなります。さらに、国際学会では世界の医療従事者と意見交換をする貴重な機会を得ることができます。もちろん、私にはまだ英語という課題が残っていますが、それでも同じ看護師同士、国際交流をしてみたいという思いは変わりません。2026 年には、ぜひ想定質問と回答をしっかり準備して、あなたも世界に向けて日々の実践を発表してみませんか？(肥後)



3. 糖尿病関連国際学会情報

- ・ American Diabetes Association 84th Scientific Sessions
2025年 6 月 20日(金) ～ 23日(月) @シカゴ/アメリカ
<https://professional.diabetes.org/scientific-sessions>
- ・ ADCE2025
2025 年 8 月 8 日(金) ～ 11 日(月) @フェニックス/アメリカ
オンデマンド配信：2025 年 8 月 25 日(月) ～ 29 日(月)
<https://www.adcesmeeting.org/>
- ・ European Association for the Study of Diabetes the 61th Annual meeting
2025年 9 月 15 日(月) ～ 19 日(金) @ウィーン/オーストリア
<https://www.easd.org/annual-meeting/easd-2025.html>
- ・ IDF-WPR 2026 & ADC 2026
2026 年 8 月 19 日(水) ～ 21 日(金) @メルボルン/オーストラリア
<https://diabetescongress2026.com/>